

電気事業会計について



沼崎 光芳 議員

助制度や、公共施設の電気代に充てるということ、新聞報道で発表された。そこで、今回費用対効果というところで質問する。

質問 平成 24 年 7 月から、再生可能エネルギーの固定買取制度が始まり、我が美浦村においても、メガソーラー事業、3,020 万円

で財務省の土地を購入。約 3・6 ヘクタール、1・9 メガワットの太陽光発電事業、想定年間発電量、約 223 万キロワット、年間平均想定売電収入、約 7,850 万円（税抜き）。20 年間の総収入は、23 億 4,200 万円を見込み、用地費や工事費など事業に絡む支出は 16 億 5,000 万円で、最終的には、6 億 6,800 万円の黒字になる。その黒字をもとに今後村では、個人住宅の太陽光発電の補

答弁（総務部長） 今年度は、建設費用に地方債を充て、7 億 2,300 万円を計上している。収入の基本となる売電収入の 20 年間の合計は、税抜きで約 15 億 3,000 万円とし、20 年間の収入合計は約 24 億 4,000 万円を見込んでいる。年間 220 万キロワットの発電量は、一般家庭約 600 世帯分の消費量となる。収益の使い道は、このメガソーラー事業開始の目的でもある家庭用太陽光発電補助金として交付することを考えている。

質問 国のほうで電力の小

売り全面自由化ということ、これからは東京電力だけではないという形になると思う。ただし、著しい経済の変化があったときには、金額が変更となる。全ての面で圧縮をしていかないと、最初の計画どおりいくというのはいずれ得ないと思う。

江戸崎地方衛生土木組合について

質問 稲敷市・美浦村で構成する江戸崎地方衛生土木

組合のごみ処理施設は、平成元年 9 月に竣工し、平成 13 年・14 年度には、ダイオキシン類発生抑制対策として、排ガス高度処理施設整備工事によって改修工事が行われ、現在に至っている。既存の焼却施設は稼働後から 24 年が経過をし、老朽化が進んでいる。そこで副管理者である村長に、今後どのようにしていくのか伺う。

答弁（村長） 温水の施設

に使用できるような設備も踏まえてでき上がれば良いと思う。美浦村では中学校にはプールがなくなり、また小学校のそれぞれのプールも老朽化してきて、修理しないと使えないという状況になっていく。龍ヶ崎市という「湯つたり館」みたいな部分があれば、少しは圏域の住民の憩いの場にもなり得るんじゃないかと思う。

質問 温水利用については、屋内プールということ、施設整備検討委員会の中、話があった。同じごみ処理を稲敷市と美浦村でやっている中で、この件に関しては、経費はかけたくないと言いつつも、やはり必要なものではないかと思う。

